ピコピコにゅーす

第 113 号　2019 年 6 月 28 日発行　島田療育センター支援部ピコピコルーム

https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/intro/pikopiko.html

ピコピコ会議メンバーの紹介

日々の活動やリハビリで手軽に利用できるものをとり入れて行きたいと思っています。これからもピコピコを盛り上げていきたいです！

支援部　神田

利用者のコミュニケーションのニーズに合わせた活用を考えていきたい。

療育部　清水

以前の病棟でピコピコ委員をして返り咲きです。 パソコン機器を使って利用者様に楽しい活動が 出来たらと思います。

1 病棟　松尾

新参者であり、且つ機械音痴な部分もありますが、委員会等で聞きながら技術を習得し、病棟の皆さんにワクワクドキドキするような活動をお届け出来たらと思っています！！

2 病棟　中野

利用者様がピコピコを楽しめるように勉強したいと思います！

3 病棟　高橋

ピコピコ委員 3 年目になりました。今年も頑張りますので宜しくお願い致します。

5 病棟　佐藤

今年もカラオケやかぼちゃんなどピコピコルームの物を利用し、楽しい時間を過ごしていただきます。　6 病棟　越後屋

ピコピコを通して、病棟活動がより楽しい時間になるよう活用していきたいです。よろしくお願いします。　7 病棟　伊原

本当に今更ながら新しいノートパソコンを購入し、パソコン教室に通い始めました。

デイケアセンター　栗山

利用者様に楽しく・便利にピコピコを活用していただけるように勉強中です。よろしくお願い致します。　PT 科　中村

昨年度に引き続き、2 年目のピコピコです。今年も皆さまに利用していただきやすいピコピコルームにできるよう、頑張りたいと思います！　OT 科　福島

ＳＴの視点から、利用者様の充実した生活につながるような機器活用を提案していきたいです！　ST 科　黒柳

臨床心理科の足立です。3 年目です。今年もよろしくお願いいたします。

心理科　足立

意思決定支援とＩＣＴ Ｐａｒｔ１

昨年度NPO法人あすみの会主催による「**重症心身障害者の意思決定支援と成年後見制度**」の研修をもとに、ピコピコ会議の取り組みと関わる内容をシリーズでお伝えします。標題にある「意思決定支援」と「**ICT**」。どちらも日々の生活の中ではなじみの薄い印象があります。そもそも「**ICT**」や「意思決定支援」とはどのようなことなのでしょうか。そしてこの二つのキーワードがどのように繋がっているのでしょうか。

「**ICT**」とは、「**Information and Communication Technology**」の略語であり、「**情報通信技術**」と訳されています。文部科学省（2010）によると「コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報コミュニケーション技術」と定義されています。この言葉では、まだまだ ICT のイメージがはっきりしないですね。

「コミュニケーションを手助けすることで、意思の疎通を図る・情報を収集する・情報（想いを含めて）を発信する。そのことにより社会参加や自分がやりたいことを可能にしていく技術」と置き換えれば、より分かりやすくなりますでしょうか。特に重い障害を持つ方々にとっては、「**生活の困難さを楽にする日々使用できる機械**」としての役割が期待されています。研修会では、いくつかの機器が紹介されました。有名な機器は iPad に代表されるタブレット端末。それに伴い多種多様なアプリケーションが公開されています。障害の特性よっては、タブレット端末を単体では使いきれない場合があります。その場合に備えて、呼気スイッチ、視線入力、音声スイッチ、身体の微細な動きを捉えるスイッチがあります。おもちゃを動かす・ゲームで遊ぶ・絵画等の芸術的な活動の他、高度な情報伝達までを可能にできています。最近は AI スピーカーも販売されており、電化製品を音声で稼働させることができる時代になりました。入院等で学校に通えない児童には分身ロボットを学校に置き、児童は病院や家庭にいてもリアルタイムで授業に参加できる機器（OriHime）まで実際に活用されていることが紹介されました。

二つ目のキーワードである「**意思決定支援**」とはどのような事でしょうか。当センターにおいては、**利用者の皆さんが何かの形で表現している意思を大切にする支援**になります。この支援は、利用者自身が主体的に人生を送る上で大変重要視されている支援の考え方になってきています。特定非営利活動法人あすみの会主催の「重症心身障害者の意思決定支援と成年後見制度」で行われたシンポジウムでは、教育・医療・親の立場からの報告がされました。「分からない・できない」を教育の過程で「分かる・できる」力を培い、家庭や施設などの生活の場でその方法を引き継ぎながら、多角的な視点で意思をくみ取る努力が大事であると話されていました。支援者に対して意識の変革を促されているように感じました。「何も分からない子、何もできない子」を「何かを感じ・想い・表現している存在」と認識し直すことで、支援者には利用者の微細な動きであっても、その行為が意味のあるものに映り始めます。利用者の微細な動きと意図する想いが繋がり始めれば、利用者は一方的にされる側から発信する側に変わる可能性が拡がっていきます。個々の機能に合わせ、情報のやり取りのできるコミュニケーションツールとなる ICT の活用は意思決定を支援と密接なつながりのあることが分かるのではないでしょうか。（清水）

引用・参考文献：
「重症心身障碍者の意思決定支援と成年後見制度」報告書
（平成 30 年度独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業）
志村健一　障がい者福祉施設における ICT の利用　　東洋大学／福祉社会開発研究　　７号（2015 年 3 月）
ＡＡＣ入門　中邑賢龍　こころのリソースブック出版会
西巻靖和　「ぼくの気持」～意思決定支援について～両親の集い　第 727 号（2019 年 1 月号 P30~p31）